

知床エコツーリズム戦略に盛り込む「ゾーニング」について

1. ゾーニングの位置づけと基本的考え方

知床エコツーリズム戦略におけるゾーニングは、提案制度に基づく新たな利用を検討する際に、地区ごとの望ましい姿や利用の方向性を示す指針として位置づける。

近年、知床の自然環境は大きく変化していると共に、観光のスタイルや来訪者の求める体験は多様化しており、「ゾーニングとイメージ（案）」が策定された当時から乖離が生じつつある。特定の利用形態や利用者層を前提とした区分は、新たな提案の可能性を狭めるとともに、長期的な戦略運用における柔軟性を損なうおそれがある。

このため本戦略では、IP 全体計画で整理された価値と、「ゾーニングとイメージ（案）」による空間的整理との関係を明らかにし、両者を統合することで場所の価値に基づくゾーニングとして再構成する。これにより、各ゾーンの価値を守りながら、その価値を適切に伝える多様な提案を柔軟に検討できるようにする。

2. 基本方針

本戦略では、IP 全体計画で整理された知床の価値を共通の出発点とする。また、「ゾーニングとイメージ（案）」は、地区ごとの利用の方向性を空間的に示した整理として捉える。

本戦略は、これら二つの整理の関係を明確にし、価値に基づくゾーニングとして整合を図ることを基本方針とする。

3. 作業方針

① 価値の確認

IP 全体計画で整理された価値を踏まえ、各ゾーンとの関係を整理する。

→事務局で作業

② 「ゾーニングとイメージ（案）」と IP で整理された価値の統合

「ゾーニングとイメージ（案）」を価値の観点から捉え直し、価値と空間の対応関係を明確にする。

→事務局にて作業後、次回会議を目途に調整

③ 利用の方向性の整理

各ゾーンにおいて守るべき価値を踏まえ、利用の方向性を整理する。

④ 提案制度での活用

提案制度において、価値およびゾーンの方向性との整合を確認する視点を整理する。